

本道における知的障がい教育の充実を目指し、教員の指導力の向上を図るため、参考となる資料を作成しました。今号は、「生活単元学習」と「総合的な学習の時間」の違いについて理解するための内容としましたので、前号と併せて参考にしてください。



前号まではこちら

□ 「総合的な学習の時間」の捉え方

「総合的な学習の時間」の特徴

- 学習指導要領に定められた教科等の一つ
 - 各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、**実社会・実生活において活用できるものとする**とともに、各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成する
- 知的障がい特別支援学校の小学部には設定されていない

□ 「生活単元学習」と「総合的な学習の時間」の関係

「生活単元学習」と「総合的な学習の時間」の違いや関係について説明します。

Q 「総合的な学習の時間」が、特別支援学校小学部に設定されていないのはなぜですか？

A 知的障がい特別支援学校の小学部には、**全学年に総合的な教科である「生活科」が設定**されています。この「生活科」においては、生活に必要な基本的な知識や技能及び態度を身に付ける学習活動を設定しますが、その中で児童に身近で分かりやすい**生活に根差した探究課題**を設定したり、**体験活動や探究課題の解決を目指した学習の過程を設定**したりしやすいからです。

Q 中学部で「生活単元学習」を行っている場合、「総合的な学習の時間」が必要ですか？

A 必要です。「総合的な学習の時間」には、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決するという、**「生活単元学習」とは異なるねらい**があるからです。なお、「各教科等を合わせた指導」の中で、「総合的な学習の時間」を合わせて指導することはできません。

生活単元学習

- 各教科の内容を**生活の自然なまとまりに基づいて統合**し、総合的に指導する。
- 様々な活動の結果として**各教科等の内容を習得**する。

各教科等で身に付けた知識や技能を相互に関連付け



総合的な学習の時間

- 探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、**よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成**する。

《ここをチェック》

それぞれの趣旨やねらい等を踏まえて、指導計画を作成し、教育活動を展開することが大切です。

